**B-２　「効果的な支援のヒント」**

不登校児童生徒から「明日は行きます」，「明日は大丈夫です」と言われることがあります。本人の様子や声の調子から判断しても「明日は来てくれそうだ」，「久しぶりに登校しそうだ」と登校への期待が膨らみます。しかし，当日になって保護者から「今日も欠席させてください」と連絡を受け，気を落としてしまった経験をお持ちではないでしょうか？このように，不登校児童生徒を次のステップへと進めていく場面では，どのようなことを考え，どのように対応すればよいのでしょうか？

**（１）考え方 ： 「『明日は行きます』は児童生徒の本音である！」**

本人はどのような思いで，「明日は登校します」や「明日は教室に入ります」と言っているのでしょう。ただ，思い付きで言っているだけでしょうか？あるいは，教師や保護者を安心させるためでしょうか？

不登校状態にある児童生徒の多くは，「学校には行きたいけれど，どうしても学校に行けない状態」にあります。ですから，学校に行くことを簡単に口にしたとはとても思えません。むしろ，「明日はなんとか学校に行きたい」という本人の覚悟から出た言葉のように思えます。言葉を発した時は，本人も「明日は必ず行こう」と思ったはずです。それなのに当日，体が思うように動かず学校に行けなかったとしたら，悔しさや自責の念を強く感じたり，周囲を失望させたと落胆したりするのではないでしょうか？そうなってしまうと，以前よりも本人の心のエネルギーがなくなり，次のステップに進むことがさらに難しくなってしまうことが考えられます。このような場合，どのようなことに気を付けて支援を行っていけばよいのでしょうか？

**（２）対応策① ： 「うまくいかなくても次につなげる！」**

不登校状態から次のステップへ移る際は失敗も想定し，たとえうまくいかなくとも本人の責任にならないようにすることが大切です。例えば，「ごめん，ちょっと早かったね」や「先生が急がせてしまったね」などと教師が声を掛け，急がなくてもよいことや失敗の責任が本人にはないことを伝えます。そうすることで，本人が自分を責め，心のエネルギーがなくなることを避けましょう。

また，保護者とも事前に相談し，教師と同じような接し方をしてもらうことが大切です。「ずっと学校に行けなかった子がやっと行ける」という保護者の我が子への思いをしっかりと受け止めた上で，保護者にも失敗を想定してもらいましょう。うまくいかなかった時は「お母さんも，まだ早いと思っていたから大丈夫だよ」，「もう少ししたら，また考えてみようか」などと声掛けし，落胆した様子を見せずに淡々とした態度で接してもらうようにしましょう。そうすることで，児童生徒が「自分のせいで親や先生を悲しませた･･･」と思わせないようにします。

うまくいかなかった時に，教師や保護者がどのように受け止め，対応するかが大切になります。本人の心のエネルギーを減らすことのないように気を配り，次のステップにつなげていきましょう。

**対応策② ： 「本人を誘うタイミングと誘い方を工夫する！」**

教師が登校刺激を与える場合は「誘うタイミング」と「誘い方」の２つが大きなポイントになります。それぞれについて，考えていきましょう。

**●タイミングについて**

「タイミング」を計るためには，本人の心のエネルギーの状態を見取ることが大切です。心のエネルギーは以下の観点を参考に確認してみましょう。

**①人目を気にせず自由に外出できる**

**②日常生活のリズムが整っている**

**③自主的に手伝いなどをしている**

**④退屈し始めている**

**⑤心のエネルギーが感じられる前向きな言動がある**

次に，本人の学校への関心度について以下の観点を確認しましょう。

**①学習机，教科書，制服などに抵抗なく触れている**

**②学校に関する話題を自分から出している**

上記で示した，心のエネルギーと学校への関心度に関する全ての項目が満たされており，教師の目から見ても本人の心のエネルギーが十分だと考えられる場合には，登校を促す「タイミング」かもしれません。

**●「誘い方」について**

登校を促してもよさそうだと判断できたら，少しずつ登校を促していきましょう。ここで大切になるのが「誘い方」です。「誘い方」のポイントは“大義名分”を必ず用意することです。“大義名分”とは“登校の明確な目的を作ること”になります。例えば，「身長だけは必ず学校で養護教諭が測定して『健康カード』に記入しなければならないんだ。身長だけ学校で測定させてくれないか。」という“大義名分”を本人に伝えたとします。すると本人は，身長を測ることだけを考えて登校できます。学校に行ったら，どこの部屋で，どういうふうに過ごすのかなどの不安を取り除くことにつながるからです。身長の測定が終わったら，引き留めることはせずに，速やかに帰宅してもらうようにします。その小さな成功体験によって，「少しの時間なら登校できそうだ」と本人に自信が生まれたら，登校への大きな足掛かりになるのではないでしょうか。本人に無理をさせることなく，登校につながるように関わることが大切です。

**～ま　と　め～**

**①　「明日登校します」に込められた本人の思いを信じましょう！**

**②　うまくいかなことも想定し，保護者とも相談して本人が自信をなくさないような接**

**し方を心掛けましょう！**

**③　心のエネルギーが満たされてきたら誘うタイミングをうかがい“大義名分”を生か**

**した誘い方で，登校へと導きましょう！**